

ぴゅあ富士フェスティバルを開催しました

令和4年11月12日・13日の2日間、コロナの影響で中止していた「ぴゅあ富士フェスティバル2022」が3年ぶりに開催されました。今年度のテーマを「地域で育む ひとりひとりが輝く 参画社会」とし、センターを拠点に活動する様々な団体の皆様が、その活動成果の発表を通じて、共に学び合い、活動の充実と互いの交流を図っていくことを目的として開催しました。

1日目は、管内市町村男女共同参画推進委員会やぴゅあ富士利用団体による「活動発表会」を午前・午後と開催しました。全10団体に、フラダンスや大正琴、朗読劇、太極拳、団体の活動紹介等をご披露いただきました。会場の皆様参加型の工夫した企画もあり、会場がひとつになって楽しい時間を過ごすことができました。その他に「バザー・フリーマーケット」や「各種体験コーナー」、「展示コーナー」（展示は2日間）の開催もしました。開場前から多くのお客様に足をお運びいただき、皆様それぞれ興味



のあるブースでお楽しみいただけたようでした。

2日目は、同年9月から10月にかけて当センターで開催しました、女性の起業を応援する「夢、叶える”あなたらしい起業」講座受講者による「夢、叶えるマルシェ」を実施しました。起業に必要なノウハウを講座で学び、それを



活かしてブースを出店しました。起業を目指す方々の「はじめの一步」！初めて出店される方も多く、商品が売れる喜びだけでなく、ブースに足を運んでくださったお客様とのコミュニケーションも楽しんでいらっしやったように思います。

2日目午後からは、講演会・ワークショップを実施しました。「男女共同参画をめぐる現状と推進の課題～地域のみinnで考えよう！取り組みのポイントとは？～」と題し、管内市町村男女共同参画推進委員の皆様や女性団体の皆様、地域住民の皆様にご参加いただき、さまざまな立場から男女共同参画の推進について考える機会となりました。小グループでのワークを実施しましたが、大学生の参加も見られ、それぞれ自分の考えを整理し、共有することで新たな視点の獲得気づきにも繋がったように思います。皆様とても積極的にワークに参加してください、とても充実した時間となりました。

何かを変えたい、何かを推進したい、何かを実現したい…そうした想いは、ひとりでは成し遂げられません。多くの皆様と集い、意見を交わし、ともに考え、共有しあう中で深まっていくものだと改めて感じます。地域の皆様が参加して久しぶりに開催できたぴゅあ富士フェスティバル。どうかこれから先も、年齢や性別を問わずさまざまな人材が育ち参画できる地域の実現に向けて、みんなで力を合わせる機会があり続けることを願います。

ぴゅあ峡南フェスティバルを開催しました

令和5年1月14日（土）、「ぴゅあ峡南フェスティバル2022」を開催しました。

新拠点への移転後、初めての開催となった今回のフェスティバルでは、新たな開催方法としてぴゅあ峡南と市川三郷町生涯学習センターの2会場をオンラインでつなぎ、双方向から様々な催しを行いました。

今年度のテーマは、「未来を拓くぴゅあ峡南～ジェンダー平等を目指して～」とし、男女共同参画先進県に向けて、ぴゅあ峡南での学びや活動がジェンダーギャップの解消につながり、性別や世代に関わりなく、誰もが活躍できる地域を目指したいという思いが込められており、改めてジェンダー平等について共に考える機会となりました。

活動発表では、管内4町の男女共同参画推進委員会が日々の推進活動の報告や男女共同参画に関する調査結果等について発表しました。普段は各町で活動されておりますが、一同で発表することで、お互いの活動を学び合ったり、情報共有する貴重な機会となりました。

午前の部の最後は、地元高校生との交流として、身延山高校の手話コミュニケーション部の皆さんによる手話パフォーマンスを披露していただきました。手話クイズやお馴染みの楽曲「花

は咲く」の手話を丁寧にレクチャーしていただき、参加者全員で1曲をマスターしました。高校生が一生懸命に取り組んでいる姿には、多くの方が感動されている様子でした。

午後は、記念講演会からスタートしました。講演会では、特定非営利活動法人男女共同参画おた理事長の坂田静香さんをお招きし、「ジェンダー平等を地域で根付かせるために」と題し、地域活動の様々な分野でジェンダー平等の視点を取り入れることや、性別役割分業意識をなくすことが重要とお話いただきました。

フェスティバルの最後は、身延町在住の音楽活動団体エンジェルスマイルさんによるたて琴の演奏を披露していただきました。ジェンダー平等を広くとらえ、平和・いのちをイメージする楽曲を演奏していただき、演奏最後の「見上げてごらん夜の星を」では、参加者全員がリズム



ムにのりながらスカーフを振り、2会場が一体となった様子が印象的でした。

今回のフェスティバルでは、従来通りの規模での開催は難しかったものの、新しい時代に相応しい、新たな形を取り入れて開催することができました。フェスティバル開催にご尽力いただきました皆さんに心より感謝申し上げます。

